

# 市議会議員5人の 政務活動に関する ご報告

発行日：平成30年3月31日

共同  
発行人

A・秋本のり子

B・湯浅止子

C・増田好秀

D・長友正徳

E・越川まさふみ



## 共同発行人のご紹介

私たち5名(湯浅止子、秋本のり子、越川雅史、増田好秀、長友正徳)の市議会議員は、市川市議会では数少ない「政党に所属していない」「無所属」の議員です。市議会では会派「無所属の会」を結成し、さまざまな市政課題に関する調査・研究に取り組んでおり、独自の存在感を発揮しております。今回は平成29年度の活動報告として、本紙を共同発行致しました。各議員の想い、活動の様子が窺えますので、ご一読頂ければ幸いです。

## 市民活動の場の確保について

私は、9月議会の一般質問で、八幡市民談話室が廃止され、その代替となる少人数でも使える施設である地域ふれあい館について現状と課題を問いました。更に、今後、この地域ふれあい館は縮小するのか拡大していくのかと問うと「地域ふれあい館も含めた35カ所の集会施設をトータルで考えてまいります。施設の統廃合や規模など、再編を進めていく考えであります。」と答弁がありました。

しかし、その日の議会散会后、「市川市の公共施設個別計画に関する説明会」が開かれました。議会中にこのような説明会が開かれることはめずらしいことです。経営改革室長から計画策定の背景や必要性などの説明があり、「整備施設105施設(建替え37施設、改修68施設)、内訳をみると廃止、民営化、用途変更、減築、統合など」として廃止を検討している地域ふれあい館5カ所とありました。この数時間前、私の一般質問の答弁は何だったのでしょうか。地域ふれあい館の廃止5カ所は用意されているではありませんか。

議長に「この説明会の設定の仕方、一般質問の通告後に連絡があったこと」を強く改善を訴えました。後日、代表者会議にて「今後は原則として説明会は通告前にすること」に決まりました。

未だ、公共施設個別計画の市民説明会は中止になっていません。

少子高齢社会を迎え、地域に市民が活動する場を用意するのは市民サービスの重要なポイントと考え、取り組みを続けます。どうぞご意見をお聞かせください。

(文責A・秋本のり子)

## 図書館民営化の流れについて

「民間でできることは民へ」「公から民」という流れがあります。市の中でも市川市リハビリテーション病院が民営化になります。市立病院を持たない唯一の直営が、経営が苦しくなりました。

新しくできる「道の駅いちかわ」も民間の経営になる予定です。子どもたちの給食も民間委託が70%になりました。どちらが良いとは軽々に言えませんが、市民のための行政ですから良いものを取捨選択しなければならぬと思います。

昨年11月に佐賀県武雄市のツタヤの入る市図書館と佐賀県伊万里市の直営の市図書館の視察をしました。市川市も市川駅南図書館のみ民営です。デパートの入り口のようなツタヤの本ビジネスの武雄市と市民と共に手づくり感の伊万里市と両方の良さがあるので何とも言えません。伊万里市は市長の思い入れが強いと館長が話されました。前に訪れた富山の射水市の子ども図書館も市長の希望と聞きました。

市長の市政新事業には絶大な力があると知りました。読書は教育の学力向上の大きな下支えと考えます。市川市の学校図書館のネットワークシステムや調べ学習の成果は先進市として誇れるものです。子どもから大人までの生涯学習のためにも図書館の意義は大きいと思います。市民に寄り添う行政が施されるようチェック機関として活動します。皆さんのご意見をお聞かせください。

(文責B・湯浅止子)



武雄市図書館。館内に2カ所ある撮影可能ポイントからの眺めです。

百条委員会の詳細を知りたい方は▶  
<http://www.mushozoku.net/stamp.html>



ご意見をお寄せ  
ください!!

Eメール: [info@mushozoku.net](mailto:info@mushozoku.net)

※Eメールは共同発行人全員宛てとなります。

越川 雅史(「無所属の会」代表)

市川市新田4-13-2-103 TEL:047-377-5777

## 自殺者の0人の社会を目指して

元旦に50代 市民の方から頂いた年賀状の現物です。

の男性から年賀状が届きました。「迎春先生に救われました。今後私のような方を助けてあげてください。」



男性は持病がありながらも働いていましたが、生活のために借金をし「多重債務」状態でした。自殺を考えた事もあったようですが、私の8年前からのライフワーク「自殺対策等の相談窓口の周知」のため、人の集まる駅等で活動をしていた際、相談いただき、ご本人の努力もあり、問題を解決できました。

いろいろな活動をしてありますが、これに勝る活動はありません。日中には皆さんのお宅を伺い、困り事や意見を伺う活動をしております。活動の成果は議会での質問にも生かしており、『市川市は、自殺の原因や背景に規則性がある』という仮説をお伝えし、自殺統計原票をもとに分析を行い市川市独自の対策を立てることの大切さをお伝えし、市川市の自殺対策はこの分野で少しづつ前進しています。しかし、それでも、毎年70人の人が自殺で亡くなっています。抱えている問題を解決し、生きるための支援をしたいです。

「誰も自殺に追い詰められる事のない社会」そんな市川市を実現します。

(文責C・増田好秀)

## ソーラーシェアリングの推進にひらき

ソーラーシェアリングとは、農業を続けながら、太陽光発電を行うものです。農地の上約3mの位置に藤棚のような架台を設置して、そこに短冊状の太陽光パネルを並べて発電します。稲、梨、いちごなどを含め、ほとんどの作物がソーラーシェアリングに適しています。

ソーラーシェアリングは、農家の所得を約10倍増にすることから、農家の後継ぎ不足、農業従事者の高齢化、耕作放棄地などの諸問題を、ひいては少子高齢化、年金、格差貧困などの諸問題を解決する可能性を秘めています。

千葉県匝瑳市では、耕作放棄地約3・2haを利用して、日本初のメガソーラーシェアリングが行われています。

ソーラーシェアリングは、本市でも推進すべきものと考え、2月定例会で取り上げました。ソーラーシェアリングについて、農家に関心を持っていただくために、家庭用太陽光発電設備設置助成



ソーラーシェアリング耕作風景 ©千葉エコ・エネルギー株式会社

制度のようなものを導入したり、講演会、説明会、セミナー、相談会などを開催したりすることについてポジティブな答弁をいただきました。

今後ともソーラーシェアリングの推進に精力的に取り組んでまいります。

(文責D・長友正徳)

## 「水害のないまち市川」を目指して

私は東国分1丁目です。新田4丁目です。どちらも浸水常襲地域です。「水害のない市川を実現する!」ということ



工事中にも度々大和田ポンプ場を訪れてました。

私の政治家としてのライフワークの一つです。平成30年2月定例会においても「市川南排水区における浸水対策」を採り上げました。同排水区においては既に大和田ポンプ場が供用開始となり、市川南ポンプ場も建設予定である。これだけでなく「水害のない市川南地域」となる。そう期待する市民の方も多いかと思えます。

ただ残念ながら、話はそう単純ではありません。例えばポンプ場が完成しても、ポンプ場の排水能力と同量の水が市中から誘導されて来なければ、その能力がフル稼働することはありません。そこでこの点を質し、「現時点においては市中の雨水をポンプ場へ誘導する能力が不足しており、整備中の幹線が供用開始しても大和田ポンプ場への導水能力が約34%不足している」、「引き続き管渠等の整備が必要である」ことを確認致しました。

市街地における雨水排水管渠の整備には時間もお金もかかります。新市長が就任した際には中長期計画策定を要望するつもりです。皆さんのご意見もお聞かせください。

(文責E・越川雅史)